

大学運動部におけるミーティングの組織化に関する研究

スポーツ社会学ゼミナール 1314064 山羽桃花

1. 研究動機・研究目的

私は小学生の頃からサッカーを始め、小学校、中学校、高校と全国大会出場や勝を目指し取り組んできた。しかし、大学に入り、話す、伝える力やコミュニケーション能力をサッカーを通して身につける、社会に出た時に活躍するための力の土台作りの4年間ということを中心に考えながら活動していくチームに入部した。そのため、試合の結果を求めるのではなく、日々の過程を大切に、ピッチ以外の場で話し信頼関係を築いたり、日々やることをやっていれば自然と結果はついてくるという考え方だった。また、他大学との合同チームで大会に出た時はこれまでやってきたサッカーも違うし考え方も違う中で一緒にプレーしていく必要があった。勝利を目指す人と、勝利するために話したり、関係性を大切にする人など様々であった。このように大学運動部には、結果を重視する学生からスポーツを通して様々な能力の向上を重視する学生まで多様な指向性をもった学生がいると考える。それぞれチーム理念や目標があり、部員にもそれぞれ役割や掲げている目標がある。このような多様な指向性ある中で、個々人の考え方と部の理念はどのように調整しながら部員たちはコミュニケーションしているのか。部内での役割や立場、自分の意見や部の目標を踏まえながら、部員はどのように考えを表明し、意見を述べ、他の部員と調整し、部全体の意見として成立させるのかを明らかにすることで、大学運動部に所属する学生たちのコミュニケーションの様態の特徴やその方法を検討する。

2. 研究方法

J大学で行われる分析ミーティングは学生自身が数人のグループになり試合の分析を行い、そこで生まれる学生間のコミュニケーション、サッカーの知識の増幅、プレゼンテーション能力の向上のために学生が主体となって行っている。また、監督が全てを話すとその意見が正解のようになってしまう傾向があったり、学生だからこそ出てくる意見も大切にしたいと考えているため基本的には結論も学生間で出すことに重きをおいている。本研究では、J大学の女子サッカー部を対象とし、ミーティングの様子をビデオカメラで撮影し、それぞれの発言を文字化した。そのテキストを誰のどのような発言で議論が進み、チームとしての意思決定が行われるのかを会話分析やエスノメソドロジーの観点から検討した。観点としては、議論がスムーズに進んでいるシーン、逆になかなか結論に至らないシーンを見てみる。また、近くにいる人同士での会話することが多く見られたのでどのような状況の場合始まるのか、また周りでの話し合いはどのように終わるのかを観察していくこととする。

3. 主な結果と考察

ミーティングの進行状況としては、会話は多くあったが、改善策はなかなか出ずスムーズに進まないことが多くあった。その原因の一つとしては、発言者がその時のシーンの状況を説明して終わったり、自分はどうするなどの、チームとしての共通した対策ではなく、個人の反省のような形が多くあったことだと考える。また、ミーティング全体をみると、発言者は試合に出ていて、映像として取り上げられた人が多く傍観者になる人も多くみられた。しかし、司会進行が名指しで発言を促したり全体に質問した場合は応答する学生も増えた。司会進行が周りで話すことを促し、おしゃべりではないが日常生活に近い状態になりある程度時間がたった時に司会進行はもう一度ミーティングの場に戻す呼びかけをした。司会進行が話を切り出すと学生は話すことを辞め聞く体制に入る。これは、同じ学生間であるが、司会進行とそれ以外の立場というものがあり、授業で先生が話している時は静かに聞くのと同じで司会進行が話すときは聞くという秩序が学生の中にあると考え、ミーティングの進み方が少し明らかになった。

4. 結論

今回、J大学の女子サッカー部のミーティングの様子を撮影し、多様な指向性をもった学生たちが自分の意見を発信しながら一つのチームとしての意見となるまでにはどのような過程やコミュニケーションがあるのかを研究した。一人一人の考えがチームとして一つの結論に至るまでには、まずは個人の意見を述べ、数人で自分の意見を交えながら話し、その中で小さな結論を出し、それを全体に発言し、そこで議論がうまれたり、出た全ての意見を司会進行がまとめて結論が出るという形がみられた。このことから、一人の意見が数人の意見となりそれが全体の意見となる。つまり、少しずつ大きくなっていくことが分かった。しかし、この結果はJ大学が「学生主体となって皆で創り上げる」と掲げているからこのような体制がうまれたのかもしれないし、J大学のビデオ撮影も一回で、結果を重視している大学のミーティングの様子を調査していないので断言できない。

5. 卒業論文の執筆を終えて

今回私の卒業論文のテーマである「大学運動部におけるミーティングの組織化に関する研究」を完成するにあたって、まず対象であるJ大学女子サッカー部のミーティングを撮影させていただいたのだが、約1時間30分にも及ぶ選手間や監督の会話を聞きながら文字起こす作業がとても大変だった。しかし、文字起こすことで会話の形やタイミングなど深く見ることができた。今回は一つの大学と一つの部活のミーティングの様子の撮影のみだったので、考え方が全く違う他大学や、種目の違う運動部、高校生のミーティングの様子も研究できれば、大学運動部所属学生の特徴をより明確に捉えることができると考える。